１　はじめに

２年目のご挨拶

園木　孝志

平成２７年は和歌山県立医科大学設立７０周年でした。記念行事の一つとして７０周年誌が編纂されますが、私は「血液内科の歴史」を担当しました。記事を書いていくと、終戦直後の混乱の中での誕生、旧医大キャンパスでの発展、紀三井寺キャンパスへの移動など、和歌山県立医科大学の歴史の一端を知ることができました。いつの時代にも困難があり、努力されていた先人たちがいらっしゃいました。また、血液内科の誕生には県民のあつい期待がこめられていました。今後も先人たちの苦労や患者さんの期待に応えるよう、努力したいと思っています。一方で、記録を残しておかないと、どのような活動があったのかが「歴史の闇」に吸い込まれてしまって、後世の人間がわからなくなることも痛感しました。これからも年に一度の活動記録を残していきたいと思っております。平成２７年から「年度」で記録していく予定にしています。

臨床では、「造血幹細胞移植などの高度集学的治療を十分に提供すること」「いろいろな血液疾患を幅広く診療すること」を目標にしています。二律背反の苦労がありますが、知恵を出しあえば問題を解決できると思っています。本年度は皆さんの努力のおかげで、２１床から２５床へ増床しています。今後さらに和歌山県血液疾患診療の中核として働いていきたいと思っています。

教育では、私は本年度から「卒後臨床研修センター長」を拝命し、また、「新内科専門医制度プログラム準備委員会委員長」も務めることになりました。卒後教育にこれまでより首をつっこんでみると、“医師としての基本的な知識・技量・態度を身につけ、専門領域と研究心を持った「臨床医」の育成”が求められていると感じています。私自身を省みると教育には不適切な部分がありますが、「自分のことは棚に上げて」若い人の指導にあたっています。

研究では、染色体転座点から見つけた遺伝子異常のモデルマウスの解析、NKG2D 介在性免疫と造血不全、EBV による血液疾患発生の解明を進めています。興味深い知見が得られており、さらに研究を深めていき臨床に還元していきたいと思っています。研究は論文化してはじめて終わるものですので、貪欲に英文論文を発表していきたいと思っています。

さて、平成２７年度も大過なく１年間を過ごせました。和田師長をはじめとする５階西病棟・血液内科外来の皆さん、松浪主任をはじめとする輸血部の皆さん、医局の花井さん・矢田さん、有難うございます。この場をかりて感謝申し上げます。この４月には二人の新入医局員（弘井先生、堀先生）と蒸野先生が、７月には田村先生が当教室に参加してくれます。臨床・教育・研究にさらに発展を期しています。

２　教室現況

（１）教室員

医局	教授	園木孝志	
	助教	西川彰則	
	助教	村田祥吾	
	学内助教	栗山幸大	（大学院生）
	学内助教	山下友佑	（大学院生）
	学内助教	小畑裕史	
	学内助教	大岩健洋	
	非常勤医師	花岡伸佳	
	非常勤医師	綿貫樹里	
	非常勤医師	蒸野寿紀	
	非常勤医師	細井裕樹	
	研修医	中尾友美	（2015.1 月 1 日～1 月 31 日）
		新井那摘	（2015.4 月 1 日～6 月 30 日）
		小上修平	（2015.4 月 1 日～6 月 30 日）
		古家美昭	（2015.4 月 1 日～7 月 31 日）
		佐藤史崇	（2015.7 月 1 日～7 月 31 日）
		中濱潤美	（2015.7 月 1 日～8 月 31 日）
		田中　顕	（2015.7 月 1 日～9 月 30 日）
		長井善隆	（2015.8 月 1 日～9 月 30 日）
		久米川綾	（2015.9 月 1 日～10 月 31 日）
		小森涼子	（2015.9 月 1 日～10 月 31 日）
		堀　善和	（2015.10 月 1 日～10 月 31 日）
		弘井孝幸	（2016.1 月 1 日～1 月 31 日）
		山本怜佳	（2016.2 月 1 日～3 月 31 日）
		栩野祐一	（2016.3 月 1 日～3 月 31 日）
	事業担当補助員	花井宏実	
	秘書	矢田尚子	
輸血部	主査	松浪美佐子	
	副主査	堀端容子	
	副主査	中島志保	
	副主査	冨坂竜矢	
	医療技師	井本翔平	（4 月 1 日～）

（２）役割・責任体制

園木：科長、研究主任、教育主任（4 年生臨床医学講座「オーガナイザー」、学生臨床実習など）、卒後研修委員、身体障害者福祉専門分科会審査部会委員、和歌山県エイズ対策推進協議会委員、原爆被爆健康管理手当等認定医、更正医療担当、リハビリテーション部運営委員会(リハビリテーション部)
腫瘍センター放射線治療委員会(経理課)、研究活動活性化委員会

西川：副科長、医局長、病棟医長、（入退院，当直表・日誌）、各科代表者薬事委員会、保険請求担当医（入院、DPC、レセプト）、リスクマネージャー、栄養管理委員、感染予防対策委員、保険請求担当者会議　中央手術部運営員会、がん化学療法プロトコール委員会、和歌山県献血推進委員会、和歌山県骨髄移植対策協議会委員、がん診療拠点病院担当医、腫瘍センター化学療法委員会(経理課)、レジメン審査委員会(薬剤部)

村田：外来医長、保険請求担当医（外来）、オーダリングシステム入力責任者、電子カルテプロジェクトメンバー、予約メンテナンス管理責任者、職場研修委員、人権同和研修委員、移植調整医師

（３）人事異動

准教授	退職	花岡伸佳（～3 月 31 日）
助教	退職	細井裕樹（～6 月 30 日）

非常勤医師	採用	花岡伸佳（4 月 1 日～）
非常勤医師	採用	細井裕樹（7 月 1 日～）
学内助教	採用	栗山幸大（7 月 1 日～）
医療技師	採用	井本翔平（4 月 1 日～）

臨 床 実 習

平成 27 年 4 月～

血　液　内　科

集合場所：**研究棟 10 階**　**血液内科医局**（内線 5453）

総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の秘書机に一部提出すること。

（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）

☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆

日付	8	9	10:30	12:30	13	14	15	16	17～
/ (/) 月		第１週目 実習の 楽しみ方 (園木教授) 第２週目 レポート進捗状況 報告(園木教授)	症例学習		症例学習※			16:30- レポート テーマ 発表 医局	17:00- 19:30 ﾁｬｰﾄ ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 5 西 CR
/ (/) 火		8:30-9:30 入院患者廻診 (園木教授)	回診後 外来 (園木教授)	12:30- 薬の説明会 第１週目 医局	症例学習	第１週目 症例学習 第２週目 14：00－15：00 造血幹細胞移植 (村田助教) 5 西 CR		症例学習※	
/ (/) 水		症例学習			症例学習	第１週目 14:00-15:00 輸血部実習 (松浪主任) 第２週目 症例学習	症例学習※		
/ (/) 木	第２週目 8:00- 8:30 ｶﾝﾌｧﾚｽ (CC/ MGH)	第１週目 外来・内科診察 (園木教授) 症例学習			症例学習	第２週目 14：00－15：00 血球形態を学ぶ (西川助教) 5 西 CR 第２週目 症例学習		第１週目 症例学習 第２週目 16:00- HIV 感染症を把える (園木教授) 5 西 CR	
/ (/) 金		症例学習			症例学習	第１週目 15:00- HIV カンファ 外来		第１週目 症例学習※ 第２週目 16:00- ﾚﾎﾟｰﾄ発表会/ﾚﾎﾟｰﾄ提出(園木教授)5 西 CR ※ﾚﾎﾟｰﾄは２部、スライド資料は全員分と教官用を準備	

教官から指摘を受けた個所を訂正し、必ず本日中に提出すること(代表者１名が取りまとめ提出)

※随時、疾患について討論を行う(園木)

３　主な活動内容

(1)　学会および研究会

1)　全国学会

「AL アミロイドーシスに対する MEL 100mg/m2 を用いた複数回 APBSCT」
Akinori Nishikawa, Yusuke Yamashita, Takehiro Ohiwa, Hiroshi Kobata, Kodai Kuriyama, Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Kazuo Hatanaka, Kentaro Fukushima, Nobuyoshi Hanaoka, Toshiharu Tamaki, Hideki Nakakuma, Takashi Sonoki　第 40 回日本骨髄腫学会学術集会 2015.5.16-17 熊本

村田祥吾、花岡伸佳、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、栗山幸大、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、中熊秀喜、園木孝志、:「特発性造血障害における可溶性 NKG2D リガンドの病的意義」、第 77 回日本血液学会学術集会、2015. 10.16-18　石川

山下友佑、西川彰則、大岩健洋、小畑裕史、栗山幸大、蒸野寿紀、村田祥吾、細井裕樹、田村志宣、畑中一生、花岡伸佳、園木孝志 :「再発難治性悪性リンパ腫に対する HLA 半合致移植の 5 例」、第 77 回日本血液学会学術集会、2015. 10.16-18　石川

Hiroki Hosoi, Kodai Kuriyama, Shogo Murata, Takehiro Oiwa, Hiroshi Kobata, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Akinori Nishikawa, Nobuyoshi Hanaoka, Takashi Sonoki :A novel double hit lymphoma cell line showing t(14;18)(q32;q21)and t(8;22)(q24;q11), 第 77 回日本血液学会学術集会、2015. 10.16-18　石川

山下友佑、田村志宣、大岩健洋、小畑裕史、栗山幸大、蒸野寿紀、村田祥吾、細井裕樹、西川彰則、園木孝志 :「Lenalidomide+Bortezomib+Dexamethasone(RVD)併用治療後に同種造血幹細胞移植を行った原発性形質細胞白血病の一例」、第 38 回日本造血細胞移植学会で発表 2016.3.3-5　愛知

2)　地方学会

弘井孝幸、細井裕樹、栗山幸大、村田祥吾、西川彰則、花岡伸佳、園木孝志 :「クローナルな T 細胞の増殖を示す重症伝染性単核球症の一例」、第 103 回近畿血液学地方会、2015. 6.20 京都

栗山幸大、綿貫樹里、細井裕樹、大岩健洋、小畑裕史、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、園木孝志:「ヒト B 細胞性リンパ腫の染色体転座切断点に同定した miR142 の機能」、第 43 回和歌山悪性腫瘍研究会（WAMT）、2015. 12. 19　和歌山

山下友佑、田村志宣、小畑裕史、大岩健洋、栗山幸大、村田祥吾、細井裕樹、西川彰則、金澤伸雄、今留謙一、園木孝志 :「治療抵抗性 EB ウイルス関連血球貪食症候群を発症した低身長・知的発達障害を有する一成人例」、第 25 回 EB ウイルス感染症研究会、2016.3.20　東京

3)　その他（研究会等）

園木孝志 :「免疫グロブリン遺伝子再構成からみた造血器腫瘍発生の機序」、和歌山内分泌・糖尿病フォーラム、和歌山マリーナシティホテル、2015. 1.15　和歌山

細井裕樹 :「クローナルな T 細胞の増殖を示す重症伝染性単核球症」、和歌山内分泌・糖尿病ファーラム、和歌山マリーナシティホテル、2015. 1.15　和歌山

中島志保 :「ABO 血液型不適合移植時の骨髄濃縮処理について」、第 13 回和歌山造血細胞療法研究会、ホテルアバローム紀の国、2015. 2. 7　和歌山

山下友佑 :「ルキソリチニブを投与した二次性骨髄線維症の 1 例」和歌山骨髄線維症セミナー、ダイワロイネットホテル和歌山、2015. 2. 27　和歌山

西川彰則 :「一般内科診療で見つかる血液疾患のアセスメント」、Common Disease を学ぶ会、2015.2.28 和歌山

蒸野寿紀 :「当科におけるトレアキシンの使用経験について」トレアキシン Meet the Expert、ホテルグランヴィア和歌山、2015. 3. 20　和歌山

西川彰則 :「多発性骨髄腫の診断と治療」、Wakayama Myeloma Forum、アバローム紀の国、2015. 4. 17　和歌山

栗山幸大 :「高齢者 ph+ALL の経験」WAKAYAMA LEUKEMIA SEMINAR、ホテルグランヴィア和歌山、2015. 5. 16　和歌山

栗山幸大 :「染色体転座に同定した microRNA142 の機能解析」、第 5 回紀州血液塾、ダイワロイネットホテル和歌山、2015. 10.30　和歌山

園木孝志 :「HIV 感染者の診療について」、平成 27 年度エイズ対策研修会、和歌山県立医科大学臨床講堂Ⅱ、2015. 11. 12　和歌山

西川彰則 :「骨髄腫の治療 “すぐそこ”」、日本骨髄腫患者の会、和歌山商工会議所、2015. 11.14 和歌山

西川彰則 :「血液製剤の適正使用について〜臨床に即して」、血液製剤使用適正化推進講演会、日本赤十字社和歌山県赤十字血液センター、2015.11.28　和歌山

山下友佑 :「同種造血幹細胞移植後に中枢神経再発を来した原発性形質細胞性白血病の 1 例」、第 14 回和歌山造血細胞療法研究会、ホテルアバローム紀の国、2016. 2. 6　和歌山

西川彰則 :「ドナー選択とコーディネート」、骨髄移植推進懇話会、アバローム紀の国、2016.2.18　和歌山

園木孝志：「悪性腫瘍の発生・進展にかかわる「遺伝子異常」と「微小環境変化」の解明」、特定研究プロジェクト及び若手研究支援助成成果発表、2016.3 月 1 日、和歌山県立医科大学臨床講堂 I

(2) 学術論文

1) 和文原著

該当なし。

2) 英文原著

Akinori NISHIKAWA, Shinobu TAMURA, Kazuo HATANAKA, Kodai KURIYAMA, Hiroki HOSOI, Shogo MURATA, Nobuyoshi HANAOKA, Noboru YONETANI, Toshiharu TAMAKI, Hideki NAKAKUMA and Takashi SONOKI

Outcome of allogeneic hematopoietic stem-cell transplantation for multiple myeloma: retrospective analysis of 16 patients：International Journal of Myeloma 5(3): 23–29, 2015

Murata S, Mushino T, Hosoi H, Kuriyama K, Kurimoto M, Watanuki J, Nishikawa A, Sonoki T, Nakakuma H, Hanaoka N.: Real-time monitoring of antimicrobial use density to reduce antimicrobial resistance through the promotion of antimicrobial heterogeneity in a haematology/oncology unit. *J Antimicrob Chemother.* 2015 Sep;70(9):2661-4.

Murata S, Mushino T, Hosoi H, Kuriyama K, Nishikawa A, Nakakuma H, Sonoki T, Hanaoka N.: Extracorporeal antimicrobial elimination enables antimicrobial mixing and affects resident bacteria. *J Antimicrob Chemother*. 2016 Jan 27. pii: dkv464. [Epub ahead of print]

3) 和文総説

該当なし。

4) 英文総説

該当なし。

(3) 著書(単行本、シリーズもの含む)

西川彰則：編集 服部健司,伊東隆雄「医療倫理学の ABC　第 3 版」メヂカルフレンド社, p198-p202,　2015.12

(4) その他の印刷物(研究成果報告集、学会抄録集、寄稿文など)

該当なし。

(5)　研究費、助成金

園木孝志：平成２７年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）B 細胞性腫瘍発生における microRNA142 過剰発現の役割

花岡伸佳：平成２7 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（代表)、特発性造血障害における NKG2D リガンド発現の臨床的意義の確立

花岡伸佳：平成２7 年度厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の用化研究事業（再生医療関係研究分野))（分担)、iPS 細胞を活用した血液・免疫系難病に対する革新的治療薬の開発

園木孝志：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業、HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究

(6)　支援研究会など

第 13 回和歌山造血細胞療法研究会（共催、アステラス製薬）：移植後免疫抑制剤を用いた HLA 半合致移植の現状と課題、**杉田純一**（北海道大学病院　血液内科学）、ホテルアバローム紀の国、2015. 2. 7　和歌山

第 13 回和歌山造血細胞療法研究会（共催、アステラス製薬）：がん治療中の外見変化へ　～誰でもできるカバーメイク～、**分田貴子**（東京大学医学部付属病院　乳腺内分泌外科助教)、ホテルアバローム紀の国、2015. 2. 7　和歌山

和歌山血友病研究会（主催、ファイザー）：血友病診療について、**西田恭治**（大阪医療センター感染症内科医長)、JA 会館、2015. 2. 21　和歌山

和歌山骨髄線維症セミナー　（主催、ノバルティスファーマ）：骨髄線維症の診断と治療、**下田和哉**（宮崎大学医学部　消化器血液学分野教授)、ダイワロイネットホテル、2015. 2.27 和歌山

がん治療のさらなる向上を目指して（主催、協和発酵キリン）：乳癌薬物療法の将来展望とジーラスタ臨床試験結果、**三好康雄**（兵庫医大　乳腺・内分泌外科教授)、ホテルグランヴィア和歌山、2015. 2. 28　和歌山

トレアキシン Meet the Expert（主催、エーザイ）：トレアキシンの最近の動向、**照井康仁**（がん研有明病院　血液腫瘍科　血液腫瘍担当部長)、ホテルグランヴィア和歌山、2015. 3. 20 和歌山

Wakayama Myeloma Forum（主催、セルジーン株式会社）：骨髄腫新規薬剤による移植治療の変貌、**宮本敏浩**（九州大学病院　血液腫瘍内科講師)、アバローム紀の国、2015. 4. 17　和歌山

WAKAYAMA LEUKEMIA SEMINAR（主催、ブリストルマイヤーズ株式会社）：白血病幹細胞の残存・耐性と分子標的療法による克服戦略、**南　陽介**（神戸大学医学部付属病院　輸血・細胞治療部　講師）、ホテルグランヴィア和歌山、2015. 5. 16　和歌山

同種造血幹細胞移植セミナーin 和医大（主催、大日本住友製薬株式会社）：HLA 不適合移植の展望と野望、**池亀和博**（兵庫医科大学　血液内科　講師）、和歌山県立医科大学高度医療人育成センター大研修室、2015. 6. 12　和歌山

同種造血幹細胞移植セミナーin 和医大（主催、大日本住友製薬株式会社）：HLA 不適合移植看護の実際、**植木智子**（兵庫大学医科病院　看護部　造血細胞移植センター）和歌山県立医科大学高度医療人育成センター大研修室、2015. 6. 12　和歌山

わかやま骨髄腫セミナー（主催、ヤンセンファーマ・武田薬品）：患者からみた多発性骨髄腫、**上甲恭子**（日本骨髄腫患者の会　副代表）、和歌山ビッグ愛、2015. 6. 26　和歌山

Chugai Hematology Symposium（主催、中外製薬）：自然免疫と獲得免疫の両者を誘導する新規多機能性がんワクチン「人工アジュバントベクター細胞」の開発、**藤井眞一郎**（理化学研究所 総合生命医科学研究所 免疫細胞治療研究チーム）、和歌山県立医科大学臨床講堂Ⅱ、2015. 7. 3　和歌山

血液内科セミナー（主催、中外製薬）：樹状細胞研究の軌跡、**藤井眞一郎**（独立行政法人理化学研究所 総合生命医科学研究所 免疫細胞治療研究チーム）、血液内科医局、2015. 7. 3　和歌山

Chugai Hematology Symposium　（主催、中外製薬）：濾胞性リンパ腫治療 UP-TO-DATE、**柴山浩彦**（大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科 講師）、ダイワロイネットホテル和歌山、2015. 7. 17　和歌山

Chugai Hematology Symposium　（主催、中外製薬）：血液疾患でみられる末梢神経障害、**小池春樹**、（名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学 講師）、和歌山県立医科大学臨床講堂Ⅱ、2015. 7. 24　和歌山

造血幹細胞セミナー（主催、中外製薬）：慶応義塾大学病院血液内科病棟におけるチーム医療、**近藤咲子**（慶応義塾大学病院　看護部 2 号 9S 病棟師長）、ホテルアバローム紀の国、2015. 8.28　和歌山

造血幹細胞移植セミナー（主催、中外製薬）：移植後のフローアップ外来について、**工藤真純**（慶応義塾大学病院　看護部　2 号館 9S 病棟副主任）、ホテルアバローム紀の国、2015. 8.28 和歌山

第 5 回紀州血液塾（主催、中外製薬）：急性骨髄性白血病の分子病態と層別化治療、**清井　仁**（名古屋大学大学院医学系研究科　血液・腫瘍内科　教授）、ダイワロイネットホテル和歌山、2015. 10.30　和歌山

骨髄腫フォーラム in 和歌山（主催、藤本製薬）：多発性骨髄腫の治療、現状とこれから～MRD 陰性から治療へ～、**鈴木憲史**（日本赤十字社医療センター副院長）、和歌山マリーナシティホテル
2015. 11. 20　和歌山

骨髄腫フォーラム in 和歌山　（主催、藤本製薬）：多発性骨髄腫のゲノム異常と臨床応用、**谷脇雅史**（京都府立医科大学大学院　医学研究科　血液・腫瘍内科学　教授）、和歌山マリーナシティホテル、2015. 11. 20　和歌山

血液内科セミナー：リンパ腫学のすすめ、**鈴宮淳司**（島根大学医学部付属病院腫瘍センター）
2015. 12.11　血液内科医局

和歌山血液学セミナー（主催、協和発酵キリン）：リンパ腫診療の進歩と課題、**鈴宮淳司**（島根大学医学部腫瘍センター　腫瘍・血液内科　教授）、和歌山県立医科大学臨床講堂Ⅱ、2015. 12.11 和歌山

第 14 回和歌山造血細胞療法研究会（主催、アステラス製薬）：移植後長期フォローアップ患者の看護支援について現状と課題、**福地朋子**（大阪府立病院機構府立母子保健総合医療センター　血液腫瘍内科　副看護師長）、ホテルアバローム紀の国、2016. 2. 6　和歌山

第 14 回和歌山造血細胞療法研究会（主催、アステラス製薬）：免疫学的再構築と GVHD、**松岡賢市**（岡山大学病院　血液・腫瘍内科　助教）、ホテルアバローム紀の国、2016. 2. 6　和歌山

(7)　海外出張

該当なし。

４　診療実績

（１）入院　患者総（のべ）数（一時退院後を含む）　324 名
　　退院　患者総（のべ）数（一時退院を含む）　325 名
（２）外来
　　患者総（のべ）数　7632 名
　　内新規患者数　314 名

入院患者疾病別分類（入院のみ，重複あり,疑い症例を含む）

１）白血病	110
急性骨髄性（AML）	(85)
急性リンパ性(ALL)	(18)
慢性リンパ性(CLL,SLL,PLL)	(3)
慢性骨髄性白血病(CML)	(4)
２）骨髄異形成症候群（MDS）	20
３）リンパ性腫瘍	135
非ホジキンリンパ腫　(DLBCL 他)	(115)
ホジキンリンパ腫（HL）	(12)
成人 T 細胞白血病／リンパ腫（ATL）	(8)
４）形質細胞腫瘍	37
多発性骨髄腫（MM）	(37)
５）血球減少症（造血不全含む）	33
再生不良性貧血（AA）	(6)
発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)	(4)
汎血球減少症	(3)
血小板減少症（ITP 等）	(15)
血球貪食症候群（HLH）	(5)
６）溶血疾患	5
自己免疫性溶血性貧血（AITL）	(5)
７）骨髄増殖性疾患	1
好酸球増多症（HPS）	(1)

８）感染症　1

HIV 感染症（エイズなど）　(1)

９）その他　12

造血幹細胞移植ドナー入院　(10)

AL アミロイドーシス　(1)

後腹膜腫瘍　(1)

（３）造血幹細胞移植(2015.1～12)

１）自家移植　14

２）血縁　4

３）非血縁　5

（４）死亡　18 名

（５）剖検（率）　9 名（50%）

5　リーダーレポート

新たな息吹

西川　彰則

今年度も大きな問題なく、医局運営および診療が行われました。この場をお借りして、医局員の皆さま、コメディカルの方々、関係者の皆さまにお礼申し上げます。医局長および病棟医長兼任で手の回らない点も多々あったと思いますが、無事運営できたのも皆さまのご協力の賜物と思っております。

さて、今年度を振り返りますと、将来につながる新しい芽がでてきたことをひしひしと感じる一年でした。4 月からは弘井先生、堀先生の 2 名が新たに我々の仲間に加わってくれることになり、7 月からは紀南病院の田村先生が医大に戻ってこられることが内定しています。多くの初期研修の先生方にもローテート頂き、これはひとえに病棟での大岩先生、小畑先生、山下先生の丁寧な指導のおかげと考えています。若い先生たちが活躍していることが、後輩たちへの強力なメッセージになっているのではないかと思っています。

私が今年度目標にしたことは、病棟の先生たちが力を発揮できるよう支えること、他科や県内の施設との連携を強化し、血液内科難民を減らすことでした。紀南病院の田村先生、ろうさい病院の阪口先生、海南医療センターの細井先生のお陰もあり、苦しい台所事情でしたが切り盛りすることができたと思っています。また、県内の血液内科診療の大きな役割である移植については、全国的に大きな動きがありました。移植認定施設基準が変更され、今後、移植認定医や移植コーディネーターの整備が条件に加わりました。全国的にもコーディネーターは不足しており、火急の問題でしたが、園木教授のおかげでなんとか適任の方にお手伝い頂けるところまで準備でき、ほっと胸をなでおろしています。

その他、院外の活動として、リレーフォーライフ、同種移植患者の会、そして和歌山で初めて骨髄腫患者の会を開催することができました。骨髄腫患者の会については、日本骨髄腫患者の会副代表の上甲恭子さんと知り合う機会があり実現することができました。

来年度は、新たなメンバーが増え、医大での血液内科診療の充実が期待されますが、一方で県全体を見渡した時に、遠隔地域の医療をどうするかという問題を解決しなくてはなりません。我々に課された責務は大きいと感じています。

～月日は百代の過客にして、行かふ年もまた旅人也～

外来医長・副病棟医長・副医局長　助教　村田　祥吾

卒業の季節となり、間もなく入学の時期を迎えるが、思い起こせば、私自身もこれまでの人生において数多くの1年生を経験してきた。幼稚園、小学校、中学校、高校、浪人、大学、研修医、血液内科医、大学院...。私生活であれば、夫、父親としての１年生もまた然り。年を重ねるにつれて、1年生になることの新鮮味は失われていくように感じるが、医師として9年目、血液内科医として7年目の今年度は私にとって例年になく新しいことが多い一年であった。こうして年報のリーダーレポートを書くことも、もちろん初めてのことである。4月より助教の職につき、外来医長、副病棟医長、副医局長という立場で診療・研究・教育という3つの責務に追われる毎日であった。想像以上にプレッシャーがあり、大変な仕事であることを実感した。教官3人、学内助教4人の常勤医師7人という病院内でもおそらく最少人数ではあったが、それ故に他科にはない団結力があり、アットホームな雰囲気で日々の業務をこなせたのではないかと思う。「少数精鋭」という言葉があるが、当科はまさにその言葉通りの優秀な人間の集まりであると自負している。部員30人の智辯和歌山高校野球部が150人を超える部員を抱える強豪校を破って全国制覇してきたように、偉業を成し遂げるのに人数は関係ないと思う。むしろ人数の少なさを他所にはない利点として、一層飛躍できる医局を築いていければと考えている。

私個人の大きな出来事は、4年半以上の歳月を経て、無事に学位を取得できたことである。指導教官である花岡先生の手厚いご指導のもと、希望通りの雑誌に論文が受理され、必死の準備の末に研究討議会を行い、12月に念願の医学博士取得に至った。一つの通過点に過ぎないのかもしれないが、やはり今年度で最も喜ばしい出来事であったことに違いない。大きな肩の荷が下りたというのも正直なところではあるが...。ご尽力下さった花岡先生、園木教授には大変感謝するとともに、私自身が今後は後輩の学位取得のための指導教官となれるようにさらに努力していかなければならないと感じた。余談ではあるが、2015年1月3日に紀三井寺で引いたおみくじは一等大吉であった。おみくじの通り、非常に幸運な一年であったと思う。

振り返れば医学部の卒業式での決意表明として、「臨床も研究もできる医師を志したい」と誓ってから早9年。当初、私は医師としての人生計画をこのように立てていた。最初の6年間は臨床に邁進する、次の6年間は研究に邁進する、そして、次の6年間は12年間の経験をもとに後輩の成長を支援する指導者として大成する。医学部が6年間であることから、何となく6年単位で掲げた目標ではあるが、今も私にとっては一つの道標となっている。最初の6年間、初期研修医、血液内科後期研修医として必死に臨床に従事したと自負している。そして、次の6年間のうち半分が経過したが、研究に関してはまだまだ不十分である。臨床であれば一人で診断し、治療法を選択し、実際に治療を行っていくという一連の流れをこなせるようになってきた。しかし、研究に関しては自分でアイデアを出し、実験計画を立て、得られた結果を論文として発表するという一連の流れを一人でこなすだけの力をまだ十分培っていない。折り返し地点にさしかかったが、残り3年で目標を達成できるよう精進していきたい。

最後に、今年度は初めて同期のいない9ヶ月間を経験した。他科であれば、この学年まで常に同期がいる環境で仕事ができることの方が珍しいのかもしれない。しかし、一番苦しい時代を共に過ごしてきた同期がいないのは、やはり寂しいものである。先輩、後輩とでは共有できない悩みを相談し、互いに愚痴を言い合い、共に酒を酌み交わすことができる同期が同じ職場にいることは本当にありがたいことである。しばしば、研修医を引き連れて飲みに出かけている4年目の先生達を見ていると羨ましくも思う。離れてみることで、その大切さが分かるとはよく言ったものだが、まさにその通りであると実感した。

さて、思いのままに文章を綴ってきたが、最後に私事ではあるが、今年で2002年1月1日から毎日書き続けている「マイブック(新潮社の文庫本型日記)」が15冊目に突入した。我ながらよく続けてきたものだと感心すらするが、5000日以上書き続けてきて、この程度のレポートしか書けない己の文才が情けなく感じたりもする。血液内科に入局を決めた頃、前任の松岡先生(現神戸大学准教授)に「株式上場企業の社長には日記を書いている人が多い」と聞かされたことがある。決して出世欲から書き続けているわけではないが、書くことはストレス発散にもなり、他人がなかなか真似できないことを継続できていることは、自分への励みでもある。仕事でも他人ができないことを成し遂げ、いつか「情熱大陸」に出演することがかねてからの私の夢である。

2015.12.18

輸血部　主任　松浪　美佐子

2015 年 12 月、ふと気付くとリーダーレポートの作成依頼が来ない。もしや、もう書かなくても良くなったんだと密かに喜んだのもつかの間…、3 月になりましたと…。

前任者の紀北分院異動に伴い、輸血部の責任者として中央検査部から異動してきて 10 年目、年報（No.2）からリーダーレポートを書いています。10 年前に前任者から輸血療法委員会で「T&S と MSBOS の導入に向けて」という継続事案を引き継ぎましたが、結局、その導入は見送られました。2015 年 4 月に C/T 比の高い 3 診療科に「予備血（和医大版 T&S）」運用を開始し、2 ヶ月ごとに輸血療法委員会でその効果を報告、遅ればせながら来年 1 月からの第 4 期システムで「T&S」を導入することが決定しました。3 月まで輸血部次長だった花岡先生、4 月から輸血部次長に就任された西川先生、輸血部部長の園木教授の助言とご協力のおかげです。

次年度の輸血部の目標は、第 4 期システムからアルブミン製剤を輸血部管理に変更し、輸血管理料 I を取得するので、同時に適正使用加算も取得できるように、FFP・アルブミンの基準をクリアすること、そして、不規則抗体カードを導入することです。個人の目標は、２名が認定輸血検査技師の試験を受けるので、合格祈願！！　そして、細胞治療認定管理師の認定（特例措置）の最終年度になるので、こちらは中島と 2 人で申請し、輸血部全体の業務レベルの底上げを図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、2015 年 4 月より輸血部の一員となったちょっと新鮮味に欠ける新人の自己紹介で今回のリーダーレポートを終わります。

はじめまして。井本翔平です。平成 27 年度から臨床検査技師として新規採用され、輸血部に配属となりました。出身は岩出市で粉河高校卒業後、ガソリンスタンドでタイヤやオイル交換・販売をしていました。今の居住地は大阪の熊取町で、そこに移ってからは泉州特産の水なすの出荷の仕事、南港で海外から輸入された洋服をフォークリフトで仕分け・運搬・管理して、発送する仕事をしていました。その後、看護師である母の影響もあり、元々興味のあった医療系で手に職をつけたいと思い、専門学校に入りました。在学中には病院実習で和医大にお世話になり、ご縁もあってこちらに就職させていただきました。

検査技師として、輸血部の一員として、何もかもが初めてで分からないことばかりでした。輸血部のみなさんのおかげでルーチン作業には少しずつ慣れてきたように思います。輸血部の業務ではタイヤ交換もフォークリフトの技術も何の役にも立たないです。ただ仕事に対する姿勢や考え方、円滑な人間関係を築くために必要なスキルなどは、昔の経験がそのまま役立っていると最近よく思います。

輸血検査業務は患者さんと直接関わることはあまりないし、想像もしづらいです。だけどその先には必ず困っている患者さんがいます。そのことを忘れずに丁寧な検査が出来るよう日々精進し、業務を行っていきたいと思います。

先生や看護師の方々には迷惑をおかけしていることも多々あると思いますが、これからもよろしくお願いします。

「1 年が過ぎて」

看護師長　和田記代子

4 月から 5 階西病棟へ異動となり、もうすぐ 1 年が経過します。私自身、内科病棟がはじめてであり、病棟の構造も他部署とは異なり、不思議な感じを受けました。医師、看護師だれ一人知っている人もいないため、とても不安な気持ちで異動してきたことを思い出します。また今年度は、新たな人員として 5 階西病棟に異動した看護師は、私を含め 10 名の異動がありました。看護師の約 3 分の 1 が異動者であり、血液内科の知識も不十分な中、みなさまには、さまざまなことで協力、支援を頂いた 1 年であったと思います。

血液内科は、本当に専門性の高い診療科であり、日々、医師の方が夜遅くまで患者のことを考え一生懸命治療に取り組まれている姿には頭が下がる思いです。看護スタッフも緊急入院、輸血、化学療法、処置、退院に向けて患者のことを考え、日々看護している姿をみると本当に頑張っているなぁと感じます。そのような中で、自分ができることは何か、安全で安心した医療とは何かと考える機会が多かったように感じます。「その人がその人らしく生きていくことができる」患者だけでなく、働いているスタッフ自身がいきいきと働けること、やりがいを持って看護してほしいと願っています。また、安全な医療・看護を提供するためには人材育成が重要な課題となります。そして人材育成には人を育てる環境、時間、愛情が必要であり、自分のできることを微力ながらコツコツ頑張ってきたいと思います。

今年度は、HIV/AIDS 研修、同種造血細胞移植後のフォローアップ研修、看護学校への白血病、HIV に関する講義など院外への研修、学会への参加を促し、人材育成に努めてきました。また、新人看護師 3 名を 1 年間通じて部署全体で育成することができました。将来、5 階西病棟で「人」という花の種が少しずつ芽を出し、蕾から大輪の花を咲かせてくれることを祈っています。ときには、嵐や日照りが続き、うまく花を咲かせない時もあるかと思います。でも、その花はその花なりに沢山のよい部分を持っています。そのよい部分を大切に育てていきたいと思います。みなさまには、さまざまな点でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一緒に大切な「人」いう花を育ててもらえるとうれしいです。

「平成 27 年度新人看護職員臨床研修終了者」

「5 階西病棟看護師」

薬剤師　佐野綾香

私は 2015 年 4 月から血液内科病棟を担当させていただいておりますが、時が経つのは早いもので、もうすぐ 1 年となります。配属当初は新しい環境に不安が大きかったのですが、先生方や看護師さん、その他スタッフの方々が温かく受け入れてくださり、思っていたよりもずっと早く溶け込むことができ、その後すぐに仕事が楽しくなりました。

血液内科では化学療法、造血幹細胞移植、HIV 感染症治療など専門性の高い治療が多く行われています。最初の頃は、血液内科領域の専門的な知識がほとんどなかった私ですが、カンファレンスや教授回診に参加させていただいたり、直接先生方にご指導いただき、最近はようやく薬剤師としての自分の役割を果たせるようになってきたと感じています。また、このような高度な治療に携わり、直接患者さんの指導を行えることは、非常に貴重な経験であり、日々専門的な知識を深めることができることに感謝しております。

近年は、2012 年に病棟薬剤業務実施加算が新設され、病棟での薬剤師の活躍が期待されていますが、当院でもいよいよ 2 年後の加算算定を目標に動き出しています。しかし、全国公立大学病院の中でも当院の薬剤師数は最下位であり、日々の調剤業務が忙しい中で十分に職能を発揮できていないのが実情です。血液内科、5 階西病棟では以前より薬剤師をチーム医療の一員として認識していただいていますが、当院の中でも専従薬剤師がいない病棟では認識していただけないところもまだまだ多くあります。

現在の薬剤管理指導業務は治療(薬)の内容が決まってから個々の患者に指導を行い算定する業務ですが、病棟薬剤業務実施加算は全入院患者が対象となり、薬剤師が投薬、注射状況の把握だけでなく、投薬前の相互作用確認・ハイリスク薬の患者指導、医師に対する服薬計画・処方提案など、治療内容決定前より積極的に治療に参加し、より踏み込んだ業務を行うこととなります。今後は当院の中でも血液内科が病棟薬剤業務のモデルとなれるよう頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、この 1 年間無事に病棟業務を行えたのは、先生方、看護師さん、その他スタッフの皆様のおかげであると深く感謝しています。また、4 月からは 2 人の新しい先生が血液内科に入局されることとなり、私も大変うれしく感じています。今後の皆様の更なるご発展とご活躍を心からお祈り申しあげます。

６　寄稿文

２０１５年を振り返って

独立行政法人労働者健康福祉機構
和歌山ろうさい病院　血液内科
阪口　臨

まず、４月に、和歌山県立医大学生の４年生向けの講義を初めて担当いたしました。この系統講義の講師の一覧を拝見すると、貴講座の現スタッフだけでなく、今までの貴講座を支えてこられた面々のお名前もあり、その中に交じりましたことが、血液疾患の臨床に携わっている者として、この上なく光栄です。
次に、同じ４月から、和歌浦中央病院の外来を担当いたしました。これまで花岡伸佳前准教授が担当されていましたので、そのご努力を引き継ぐことに心改まる想いです。また、私の貴院勤務時代に診ていた患者様も数名おられ、さらに感謝の念を抱きながら診療しています。
また、６月に、和歌山県の化学療法実務者研修会で、こちらも初めて講義を担当いたしました。これは、すべてのがん種における抗ガン剤治療に関わる医療スタッフ向けに、毎年、年２回開催されており、県下の医師・薬剤師・看護師など多岐にわたる聴講者が集っています。数年前に、当院より栗本美和先生が講師として招かれ、悪性リンパ腫の治療の実際について講演しています。今回は、同じ悪性リンパ腫で、この数年で、組織の悪性度や病態により、治療の層別化が図られつつあるという劇的な変化をテーマに講義しました。実は、この研修会は５大がんがメインテーマであるのですが、いわゆるマイナー系のがん種の中でアンケートを取ると、毎年、関心度が最も高いのが血液がんです。様々な医療スタッフが注目している疾患を診ていることに誇りと責任を感じる瞬間でもあります。
さらに、１１月には、日本骨髄腫患者の会主催の市民講演会に出席いたしました。こちらは、貴医局の西川彰則先生が、すでに２回開催された都道府県もある中、和歌山県は一度も開催されていないという実情をお知りになり、今回の講演会の実現に奔走されました。その西川先生をはじめ、園木孝志教授も紀南病院の田村志宣先生もお迎えしたことも相まって、予想を超える人数の参加者にお越しいただけたことに、心から喜びを感じました。
最後に、これからも、精一杯頑張りますので、ご支援ご指導よろしくお願いします。

“紀南病院の日本血液学会血液研修施設認定”

紀南病院
血液腫瘍内科　田村志宣

紀南病院血液腫瘍内科の田村です。皆様方には日々大変お世話になっております。今回、寄稿文の依頼がありましたので、記載させて頂きます。

皆様ご存知のとおり、和歌山県は縦に広く、県庁所在地は大阪府に近いところにあります。そのため、血液疾患を診療できる施設は偏在しており、数年前までは“北高南低”でした。田辺市から最も近い血液内科医常勤の施設でも車で 1 時間半かかっていました。

平成 24 年 4 月より血液腫瘍内科を開設し、多くの血液疾患をフォローしてきました。ただ、私一人でハードな血液診療、そんなに長続きしないものです。何故かしら昔から県全体に“血液疾患アレルギー”みたいなものが根強くありましたので、多くの医療従事者（研修医・後期レジデント含め）に少しでも血液診療に興味を持ってもらいたいと考えていました。そこで、この紀南地区でも血液専門医レベルの研修・診療が十分できることを啓蒙するため、平成 25 年 4 月頃から日本血液学会血液研修施設の認定を受ける計画を立てました。

血液腫瘍内科を開設した 3 年後の平成 27 年 4 月に紀南病院は日本血液学会血液研修施設に認定されました（図１）。血液研修施設の認定にあたり様々な条件を満たさないといけませんでした。下記がその 5 つの条件でした。

①　血液病床を常時 5 床以上有すること。
②　専門医になるための臨床研修が可能であること。
③　原則として指導医 1 名以上が常勤していること。
④　臨床血液学に関する教育的行事を定期的に開催していること。
⑤　認定施設は、本学会による血液疾患登録（または小児血液学会，国立病院機構による登録）を行っていること。申請時に、過去 1 年間（または登録開始時点から）の疾患登録数を記入して提出することとする。

①の病床数（クリーンですでに 5 床）と②の臨床研修の内容（地方会での発表と臨床試験の参加実績）については問題ありませんでした。そこで、私自身が③の指導医になることが最優先課題となりました。血液指導医認定の高いハードルは、医学雑誌の筆頭著者として 5 報投稿することでした。少し時間を要しましたが、先生方の御協力により 1 年半ほどでクリアできました。④については私が病棟の勉強会で実際行った内容で申請することとしました。最後にクリアする必要があった項目は、⑤の血液疾患登録（Ptosh）でした。1 週間程度かけて、過去の電子カルテを見直し、当院で診療した 1 年間の新規の血液疾患の登録を行いました。上記の全ての項目を満たしたことを確認したうえで、平成 26 年 12 月に申請を行い、日本血液学会の審査を経て、無事承認されることになりました。

日本血液学会血液研修施設の承認を得てから半年以上が経過しましたが、あまり実感が湧かなかったのが正直なところでした。そんな折、10 月 16 日～18 日の 3 日間開催された日本血液学会学術集会（金沢）において、全国にある日本血液学会血液研修施設の疾患登録数が会場で公表されていました（図２；社会保険を外すのをすっかり忘れていました）。紀南病院の疾患登録数は、近隣の施設と負けず劣らずの症例数であったことにびっくりしました。この紀南地域に血液疾患の症例数が非常に多く、ただ単なる啓蒙だけでなく、日本血液学会血液研修施設として地域診療に果たすべき役目をもっと考えていかなければならないと再認識しました。血液診療の“北高南低”はまだまだ変わりないことは事実です。寛解導入・自家移植・論文/学会発表・各臨床試験の参加など activity 高く血液診療を行っておりますが、なにぶんにも今も一人の状態が続いています。今後とも、多くの先生方の御協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に自身の近況です。41 歳になり、老化をヒシヒシと感じております。2015 年 7 月から体力を維持するために始めたランニングは、今も継続しています（週 2～3 回で、1 回 10km 以上はランしています）。2016 年 2 月にあった口熊野ハーフマラソン（初ハーフ）で 2 時間が切れたことが、最近で最も嬉しかったことでした（図 3）。体力と時間が続くかぎり、来年も走りたいです！

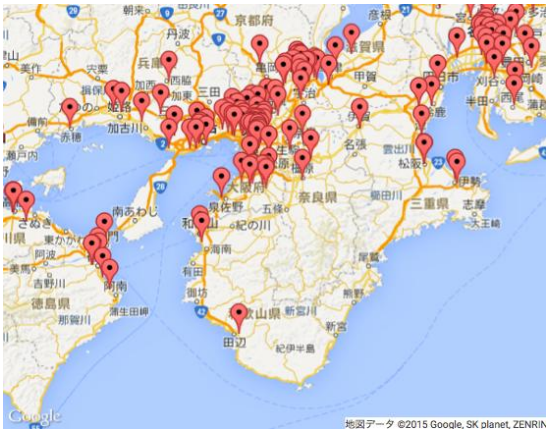

図１
平成 27 年 4 月からの日本血液学会血液研修施設

83	神戸大学医学部附属病院-血液内科	日血	65
25	神戸大学医学部附属病院-腫瘍・血液内科	日血	124
82	神戸大学医学部附属病院-小児科	小児	21
83	医療法人新生会総合病院高の原中央病院-血液内科	日血	3
98	近畿大学医学部奈良病院-血液内科	日血	173
23	公益財団法人天理よろづ相談所病院-血液内科	日血	55
49	奈良県立医科大学附属病院-小児科	小児	2
13	和歌山県立医科大学附属病院-血液内科	日血	57
65	和歌山県立医科大学附属病院-小児科	小児	19
4	日本赤十字社和歌山医療センター—血液内科	日血	15
8	日本赤十字社和歌山医療センター—小児科	小児	3
4	社会保険紀南病院-血液腫瘍内科	日血	80
78	鳥取県立中央病院-血液内科	日血	162
133	鳥取大学医学部附属病院-小児科	小児	4
5	独立行政法人国立病院機構米子医療センター—血液内科	国立	70
61	大田市立病院-内科	日血	10
177	島根大学医学部附属病院-腫瘍血液内科	日血	98
24	島根大学医学部附属病院-小児科	小児	15
111	財団法人倉敷中央病院-血液内科	日血	285
5	川崎医科大学附属病院-血液内科	日血	122
84	医療法人清梁会高梁中央病院-血液内科	日血	6
5	独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院-内科	日血	12
49	岡山大学病院-血液・腫瘍内科	日血	51
99	岡山大学病院-小児科	小児	4

図２
平成 26 年 1 年間の全国血液疾患登録数
（一部抜粋）

図 3
口熊野ハーフマラソンのゴール直後

平成 27 年度が終わり、振り返ってみます。

昭陽会　綿貫整形外科　内科　綿貫樹里

4・5 月
花岡先生が転任の転任に伴い引き継いだ MDS 患者お見送り。綿貫整形　内科 2 年目突入。
6・7・8・9 月
相も変わらず内科診療＆家事育児、リアルタイム PCR は思うようにならず…。
10 月
綿貫整形手術後 HIT 症例にドタバタ(@_@;)。綿貫整形入院中透析前患者の K6.8 におろおろ。
11 月
綿貫第 2 クリニックが法人化し、「紀杏会」の「杏」をちょっともらって「杏樹会」にしてしまいました。(^^)
12 月・1 月
記憶にないほど平凡な日々？？それとも、忙しすぎて記憶にない？いずれにせよ記憶にない…。
2 月
いつもの外来患者おじいちゃんがネフローゼ症候群発症 TP4 台。ちょっとびっくり(@_@)そして、第 2 回同門会総会。中熊先生や古賀先生にお会いできて、また紀杏会が 2 歳を迎えてとてもうれしい日でした。懇親会で多くなった医局員の皆さんの立ち姿を中熊先生と眺めながら医局の若さを感じ何とも言えずうれしかったです。
3 月
自宅の児童 2 名インフルエンザにて出席停止。41 度の発熱と 2 峰性発熱に難儀(—_—)!!のどかな春をようやく迎えた今日この頃(*^_^*)です。

このリーダーレポートのおかげでなんとなく過ごしている日々を振り返るいい機会をいただきました。結局大したことはできずに 1 年過ぎたのかなぁと思う反面ちょっぴりずつ見えないところで何かが前進しているようなそんな 1 年でした。H28 年度はお二人の先生が入局とお聞きしました。今年度はどんな年になるのか少々の不安もありますが、どんなことがあってもなるように進んで行くぞと思いつつ、次回リーダーレポートのために毎月心に残ったことを書き留めねばと思った平成 28 年 3 月 31 日でした。

年報に寄せて～2015 年度を振り返る～

高野町立高野山総合診療所
総合診療科　蒸野　寿紀

卒後 9 年目の 2015 年。高野山総合診療所で勤務して 2 年目となりました。昨年は高野山開創 1200 年記念大法会が開催され、多くの参拝者・観光客が訪れました。4 月 2 日から 5 月 21 日の 50 日間の期間中、約 60 万人が高野山を訪れ、旅行者の急病約 80 人が診療所を受診しました。年齢層は比較的高齢で、高血圧や糖尿病などの基礎疾患を有する方が多かったですが、幸い、簡単な処置や短期間の入院で軽快する方がほとんどでした。旅行中の急病であり、どうしたら無事に帰宅できるかを第一に考え、診療にあたりました。数名の方が旅行終了後に感謝の手紙を送って下さり、温かい気持ちになりました。法会の期間を過ぎても、夏から秋にかけ、訪れる方は途絶えることなく、忙しく賑やかな 1 年でしたが、このような節目の年にここで勤務できたことは、私にとって貴重な経験となりました。2016 年となってから、NHK の大河ドラマでは「真田丸」が放送されていますが、高野山には真田幸村が蟄居していた寺院があり、今年もまだまだ「高野山熱」が続きそうです。

週 1 回の大学での研修日では、水曜日の外来を担当しました。花岡先生の外来を引き継ぎ、骨髄増殖性疾患や慢性骨髄性白血病、特発性血小板減少性紫斑病などを主に担当しました。入院では見ることの少ない貴重な症例を経験させて頂き、大変勉強になったと感じています。週 1 回のみの勤務のため、入院などの急な対応が必要となった際には、病棟を中心に他の先生方に助けて頂き、血液内科のチームワークに支えられたと感謝しています。

今年度で自治医大卒業後 9 年間の義務年限が終わりますが、自分にとっては一つの大きな節目であり、無事この 9 年を終えられたことを非常に感慨深く思っています。来年度は大学で勤務しますが、0 か 1 からのスタート、医師人生の第二章といった心境です。この 2 年間は外来診療のみでしたので、白血病の化学療法や同種移植に携わることに不安がないと言えば嘘になりますが、血液内科の一員として、真摯な態度で責任ある診療を心がけたいと考えています。また、多くの学生・研修医に血液内科の魅力を伝えられるような、教育・指導をできるよう、自己研鑽に努めて参りたいと思います。さらには、ライフワークとなるような研究テーマに出会えればと考えています。今後もご指導のほどよろしくお願いいたします。

海南医療センターの近況

海南医療センター内科
細井 裕樹

前任の栗山幸大先生より引き継ぎ、2015 年 7 月より海南医療センターで勤務させて頂いております。海南医療センターに血液内科の常勤ができたのは、2014 年 7 月ですが、前任の栗山先生が血液内科診療のシステムを作ってくれておりましたので、現在はスムーズに血液内科診療ができております。

当院では、ご高齢の方の悪性リンパ腫に対する CHOP 療法や、多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ療法を主に行っております。また、高齢者が多いこともあり、分子標的薬も積極的に使用しており、リツキシマブやボルテゾミブ以外にも、多発性骨髄腫に対するレナリドマイド、成人 T 細胞白血病に対するモガリズマブや、急性骨髄性白血病に対する病勢コントロール目的でのゲムツズマブオゾガマイシンも使用しています。当院の病床数は 150 床ですが、血液疾患の入院患者様は常時 15 人程度です。

一方で、血液内科外来患者数はこの 1 年で徐々に増加し、週 1 回の外来ですが、毎週 20 人前後になっております。その中には、再生不良性貧血や骨髄異形成症候群のために、毎週輸血に通われている方もいます。当院での血液内科診療の認知度もあがってきているためか、近隣の開業医の先生からの血球数異常などの紹介も増加しております。また、当院内科で入院した方の相談も気軽に受けており、その中には、急性前骨髄性白血病の初発や、急性骨髄性白血病の初発の方もありました。急性骨髄性白血病の方に関しては、寛解導入療法を行い、骨髄バンクのコーディネートをしながら、当院で地固め療法を続けております。当院では同種・自家移植治療はできませんが、大学病院と連携して、その他の治療法をできるだけ行えるように充実を図っているところです。

その他にも、血液内科疾患以外の救急受診の患者様の診療も行っており、肺炎、胆嚢炎・虚血性腸炎などの消化器疾患、脳梗塞など一般内科的な診療にも関わることができています。一般内科は数年ぶりですので、新鮮な気持ちで大変勉強になっています。他の内科の先生方も協力的で、コメディカルの環境も含めて、非常に働きやすい病院です。当院を、一般内科診療を学びながら、海南近隣の血液内科診療と、医大の血液内科診療のサポートをできる場にしていきたいと考えています。今後とも御指導を宜しくお願い致します。